

## 平成 25 年度第 2 回 地域福祉計画地区推進会議

### 【北部・中部地区合同】（議事概要）

- 日 時 平成 26 年 3 月 20 日（木）17：30～19：40
- 場 所 市川市役所 3 階 第 1 委員会室
- 出席者
  - 各地区委員 : 20 名（北部 7 名、中部 13 名）
  - 社会福祉協議会 : 14 名
  - コミュニティワーカー : 3 名
  - 地域福祉支援課 : 9 名
  
- 配布資料
  - 《 事前送付資料 》
    - ・資料 1 地区別計画検討状況（北部・中部）
    - ・資料 2 第 6 期介護保険事業計画における日常生活圏域の考え方
    - ・ご連絡 地域ケアシステム拠点機能について
  
  - 《 会議資料（机上配布） 》
    - ・会議次第
    - ・参考 地区推進会議委員名簿
  
- 協議内容
  - 開会宣言
  - 課長挨拶
  - 職員紹介
  - 資料の確認

#### ■次第 1 第 3 期地区別計画について

##### 事務局

- 地区推進会議の位置づけの確認
- 地域福祉計画の概略の説明
- 《資料説明 ご連絡 地域ケアシステム拠点機能について》
  
- 《方向性 1 活動の場の確保・充実》

##### 市川第二地区 滝沢委員

これからホームページなど活動の幅が広がっていくことを期待していたところで

あるが、26年度パソコンを導入することができないとのことであり、今後、いつごろ再導入できるのか？

事務局 野口課長

力及ばず予算確保が叶わず申し訳ないが、新たな事業実施のための予算確保に当たっては財源を確保することが前提とされる。新しい事業でパソコンを利用する事業を検討し、できるだけ早期にと考えているが、時期を明確にお示しすることはできない。今後、国の方で示されるモデル事業等があれば、積極的に取り組んでいきたいと考えており、介護保険の改正に伴う生活支援などで、地域の方々と協働するところに絡めて予算要求していきたい。

市川第二地区 滝沢委員

そうすると、現状では先が見えないということである。方向性4 情報の共有化にも大きく関係するが、今後、地区社協を運営し、新たな展開をしていく以上、情報化社会において、欠くことができないものであるため、一刻も早く再導入の方向性を示していただきたい。

真間地区 石崎委員

同じように疑問を持って参加している。

先ほど地区推進会議の機能について説明があったが、各14地区の活動等を情報共有し、課題への意見交換等をする場であり、またそこから課題を行政施策に反映していく機関であるとのことであった。ここに参加している委員の多くが、このパソコンの件については、疑問を感じていることと思われる。

真間地区においては、ホームページを立ち上げ一生懸命取り組んでいるところである。行政としても第2期計画の段階から掲げており、3期計画においても情報の提供と啓発ということで、「公助」としてインターネットの活用による福祉情報の提供、様々なツールを活用し、市民に情報を提供することとしている。これを受けて、「共助」としても、インターネット等を活用した活動の展開に取り組んでいこうとしているものと思われる。それに対して、ここに参加している方々は、同じ方向で臨んでいたと思われるが、財政当局には小さいけれども大事な動きの芽を摘むような考えで、認めてもらえなかったのは非常に残念である。再導入の時期もいつになるかも示せないということであれば、皆様に要望書を提出することに賛同していただければ、市民の地域福祉活動にどうしても必要であるという現場の声を市に伝えていくことを提案したい。皆様のお考えを伺いたい。

事務局

真間地区の石崎委員より、パソコン導入に向けた要望書の提出のご提案があったが、皆様のお考えを伺いたい。

八幡地区 鶴田委員

先日、各拠点に印刷機が導入された。印刷機自体は社協から導入されたが、パソコンの件については、それが導入される以前からわかっていたことであり、どちらの方が重要なのかということを見ると、パソコンの方が優先だったのではないかと。

に、印刷も含めて自分たちでやっていこうという思いは良いが、パソコンの問題は、その時点からわかっていたことで、その点との整合性がついていない。財政が厳しいのは認識しており、もっと以前にそのような説明をしておく必要があったのではないか。第3期計画策定の際にもわかっていたことから、印刷機の導入とそれに対してパソコンが導入できないということで、予算の使い方について疑問がある。

#### 事務局

印刷機の導入とパソコンの予算がつかないことで、整合性が取れていないとのご指摘である。印刷機については、社協の努力により各地区の活動をバックアップしていこうという思いの中から、社協からリースいただいたところである。パソコンについては、地域の皆様のご意見をいただいているとおおり、行政としても地域の活動を支援していこうという思いから導入にこぎつけた経緯もある。今回、そのような経緯と実績を財政当局に訴えてきたところであるが、残念ながら効果として見えにくいということもあり、予算確保が叶わなかった。今後、国から示されるような財源で、適用を受けられるようなものがあれば、積極的に取り組んでいきたい。

#### 事務局 野口課長

時期については、少なくとも来年度予算の際には再度予算要求していくつもりである。ただ、その前の段階に補正予算となると、新たな事業の中でパソコンを使用するものと合わせて、地域の方々に活用いただける方法を研究していきたい。

#### 市川第二地区 滝沢委員

非常に苦しい状況は理解しているが、鶴田委員からのご指摘もあったが、XPのサポート終了はだいぶ以前から示されていたことから、個人的には対応してきている。行政には期待していたところであるが、今回このように叶わないということとなった。ホームページを立ち上げたとしても、セキュリティが確保されていない状況では、万が一のウイルス被害があった場合、被害の拡大につながる可能性がある。そのようなことから、機器が壊れるまで使って良いというようなものでもない。最小限1年間待たなければならない。

先ほど、石崎委員から提案があったが、事務局としても要望書があれば力添えになるのであれば。

#### 事務局 野口課長

パソコン自体が使えなくなるわけではなく、インターネット接続に脅威があるということである。例えば、ホームページを作成いただいたものであれば、データをお預かりして、行政のパソコンからアップするという方法もある。ただ、非常に手間がかかるということは事実であり、お手数とご迷惑をおかけしていると認識している。

#### 真間地区 石崎委員

最初のテーマであった、活動の場が多世代の交流の場になるという目標もある。真間地区の拠点では、壁面を利用して小学校の作品展などを行っており、親子で来所し、展示された作品をスマホで撮影し父親に写真を送ることや、赤ちゃんサロンに参加する母親などもスマホで情報を収集して参加する時代である。多世代を引き込もうとし

たら、まさにインターネット、スマホの時代であり、1年待つことは到底できないことで、そういう意味で要望書がどのような力になるかは不明であるが、地域の意思を表した方が良く考えている。

#### 事務局

財政と直接折衝を行ってきたが、今後の反省として、地域の皆様の活動状況についてもっと資料をいただいて、さらにアピールをしていくよう努力していきたい。

#### 事務局 野口課長

この会議の前にも、財政当局には働きかけているところであるが、今後とも相談させていただきたい。

#### 事務局

パソコンに関する皆様のご意見をいただいたが、それ以外で活動の場の充実ということで情報共有できることがあれば、紹介いただきたい。

空き店舗を活用している地区として、真間地区と宮久保・下貝塚地区があるが、今年度、特に空き店舗の特徴を利用した活動を展開しているとのことで、宮久保・下貝塚地区 岩松委員のよりご紹介いただければ。

#### 宮久保・下貝塚地区 岩松委員

大勢の方を自ら参加していただくための取り組みは、実際には非常に大変なことである。25年度においては、67人の福祉委員は、自治会の役員や民生委員、その他団体の方々など様々な立場であるが、まずはサロンの活動状況などを知ってもらい、そのような方々から口コミで広がっていくように、毎月実施した内容などを現場から挙げていただき、写真やコメントなどを付して持ち帰って、地域に流していただく。そのような形で、毎月のサロンを、年間10回程度になるが、福祉委員から紹介するように情報共有を図ってきた。内容は手芸や子育てなど複数あるため、月に均すと4回くらいの活動の情報が上がってくるが、非常に貴重な情報がある。子育てのサロンなどは、子供だけでなく母親同士の交流にもつながり、幼稚園入園前の子供を持つ親の知り合う機会や交流を持つ機会が限られており、良い企画となっている。

また、その集まった情報であるが、サロンでの作品や活動状況の内容など年間を通して様々なものがあり、それらを持ち寄って、拠点を知っていただく意味も兼ねて、3月の第1週の1週間、ギャラリー展を開催した。拠点の場所を知ってもらうことももちろんであるが、活動の内容を知ってもらうことを目的として、サロンの作品展と写真展を開催したところ、160名の方々の来所があった。特別回覧したわけでもないことから、どのようにギャラリー展を知ったのかたずねたところ、知り合いや近所から聞いたなど、福祉委員の方々からの口コミで広がったことがわかった。

来所者160名のうち107名の方からアンケートの回答をいただき、今後、どのようなふれあいの活動を希望するか、関心を伺ったところ、健康に関わる集まりが非常に希望されていた。当地区は、少し高齢化が進んでおり、健康で元気な時間を長く作っていこうと呼びかけていたことあり、それも影響しているのかと思われた。また、もうひとつ健康絡みで、健康体操も3月に開催した。これも口コミで参加者を募ったが、口コミ効果がどれくらいあるのかと考えていたが、約30名の参加があった。これは、

健康体操で専門の方にボランティアで引き受けていただけた。このきっかけとしては、介護のお世話になる比率の25%の原因が、躓いて転倒するなど怪我からくるものとされている。バランスを取ることが大事であるという体操で、いかに転ばないかという簡単なものであるが、ビデオを見ながらやるとなかなか難しい。このように、新たな活動のヒントがあったので試してみようと思い組みんだところ、たまたま講師の先生が見つかったため、来期に向けたテストとして開催した。

地域とのふれあいということでは、どのようなニーズがありどのように声をかけたらよいのかということで、来期においては、「お互いさま会議」と称して、年3回程度開催を考えている。これは、関係機関との情報交換や現場の地域からどのようなニーズがあるのかといったことを、意見交換することを目的としている。また、介護にならないような予防のためのシステムといったところに、予算がつくのかどうか。他の自治体では、そのような検討がされているとも聞く。体操についても、そのような意味でも応援があるのかどうか。そのようなものがあれば、予防の場づくりのきっかけにもつながるものと思われるので、検討いただければありがたい。サロン活動においても、予防や健康に対しても、新たに立ち上げるようなものにもつながっていくように思われる。

## 事務局

宮久保・下貝塚地区のすべての「方向性」に関わる活動を紹介いただいた。

活動の場や機会を増やしていくこと、地域の方々にもどのように参加してもらおうかというところで情報の共有化のため福祉委員のロコミを活用したこと、また、これまでの活動を紹介すると合わせて、拠点を知ってもらうため、ギャラリー展を開催された。また、そのような機会において、アンケートを実施し地域ニーズを計り、それを実現させていくための仕組みとして「お互いさま会議」を設けていこうといった取り組みを紹介いただいた。

介護予防について、何らかの支援がどのようなものがあるのかといったところについては。

## 事務局 野口課長

介護予防については、1次予防と2次予防というものがある。1次予防については、いきいき健康教室を開催しており、2次予防としては65歳以上の方で、介護保険を利用されていない方や入院されていない方などを対象として基本チェックリストを送付し、その結果によりリスクの高い方に対して通所による教室や訪問による指導を実施している。

これは、先ほども触れた介護保険制度の見直しの中で、1次予防的なところとして、予防の段階で体を動かしていくことや、日常の中で予防につながるようなところを今後進めていくべき方向が示されつつある。第6期介護保険事業計画において、予防の事業内容について検討していく必要があり、現在のサロン活動等や生活支援も含めて、地域の中で予防につながるものになるのではと考えている。介護保険制度とサロン活動をはじめとする地域活動につながっていなかったところを反省しているが、今後、介護保険制度など高齢者を支える仕組みづくりが地域づくりにつながって、高齢者だけでなく、子どもや障害者を含めた地域づくりを考えていくようにしていきたい。

また、サロンの予防の部分については、例えばふれあい会食会などに保健師等が参

加させていただきます、簡単な体操をするなど、それぞれのすでに活動されているものも多く、様々な内容を含めて今後メニューのようなものが作れば良いと考えている。

宮久保・下貝塚地区 岩松委員

今回やった体操の内容は、健康柔体操ということで、柔道をやっていた接骨院の先生にお願いした。柔道は倒されると負けとなることから、そのような動きの中から、バランスを取るような良い体操であった。そのような取り組みに対して、行政からも何らかの支援があれば、非常に心強い。また、継続することに意義があるところであり、そのような方向性があれば情報提供いただければと考えている。

事務局

それでは、活動の場の確保・充実ということで、山口コミュニティワーカーから補足があれば。

山口コミュニティワーカー

先ほどのパソコンの件について、石崎委員より要望書の件についてご提案があったが、インターネットはもちろんであるが、メールが使えなくなることについては、各地区の広報担当者にも影響があるものと思われる。要望書のたたき台のようなものを作成し、賛同いただける地区を募るということについて、この場でそのような方向性で進めるのかどうか確認しておきたい。

真間地区 石崎委員

たたき台については、皆さんの関心があれば、作成して回していくので、適宜加筆修正をいただければ。それに賛同いただけるかどうかは、各地区でご検討いただければ良いと思われる。

ひとつは、地区推進会議としてとなると、この場で全員合意でないといけないので、それとは離れて有志として、現場で非常に困っているということを感じるところがあれば、賛同いただける地区で合同で出していければと思っている。そのような行動に対しての皆さんのご意見が伺えれば。

国府台地区 岸田委員

その件について、財政当局は要望書を受けて左右されるような状況にあるのか。あるいは、現場でもう少し説得するような活用状況であることを示していくことによって、導入に協力していくという方が良いものと思われるが。要望だけで予算が確保できるというものでもないと思われる。

事務局 野口課長

皆さんのご意見は、十分理解しているので、再度財政当局には伝えていく。皆さんが要望書が必要だと判断されるようであれば、事務局としてはそれをお預かりして、伝えていく。

市川第二地区 滝沢委員

理解した。この場で、パソコン導入の可否を問うているのではなく、この件で意見

をそれぞれ聞いていると時間が足りない。しかし、この件については、地域の要望が強いという状況は認識いただきたい。

また、今後、要望書については検討するので、相談に乗っていただければ。

山口コミュニティワーカー

では、その方向で後日改めて皆様のご意見をいただきたい。

## 《方向性2 さらなる人材の確保・育成》

事務局

では、さらなる人材の確保・育成ということで、各地区のご意見を伺いたい。

真間地区 石崎委員

先日、地域ケア推進連絡会の際に、在宅介護支援センター、地域包括支援センター、行政でも認知症サポーター養成講座を開催しているが、講座の受講者が地域で活かされないのはもったいないとの話になった。例えば、地区社協から受講者のリストをくださいといっても個人情報であり提供はできない。では、どうしたら良いかということで、主催者側が参加者に対して、自分の地区で認知症の方の支援を話し合う会議を仕掛けてはどうか。そのような場に受講者を呼び込めば、意識のある方に集まっていたら、地区社協からも同じ会議に出席し、様々な話をしていくことで、サポーターを人材として、地域でも活かしていくことができるのではないかと話し合った。これは来年度に向けて、在支や包括と一緒にやっていきたいと考えている。人材ということでは、ボランティアセンターに登録する場合もリストを出すのは難しく、また、マッチングもなかなか難しい。シルバー人材センターも、真間地区在住の会員に地域ケア推進連絡会に出席いただき、何らかのニーズがあった場合はすぐにマッチングができるようなことを目指すよう話し合いができた。

事務局

真間地区では、認知症サポーター養成講座の受講者に対して、地域での活動が可能かどうかについて、主催者側である在支、包括、行政等から意向を確認し、地域での活動への参加を促してはどうかということ。また、シルバー人材センターに働きかけ、より地域に密着した活動につなげるため、その地区在住の会員を地域ケア推進連絡会に参加いただき、スムーズなマッチングを図れるよう努めている。

では、ボランティアということでご意見いただければ。

ボランティア協会 山崎委員

認知症サポーターの講座については、出前でやっていただけるということでご案内があり、ひとつのボランティアグループが団体の会合の際に、受講するということが依頼している。これは大変に良いことで、登録ということではなく、ボランティアグループは市内様々な地区から集まって参加しており、そのような方々が自分の地区に戻ってサポーターとして何かしらの役に立てるのではないかと。様々なグループがあるので、今後、どんどんそのようなことを広めると市内に多くのサポーターが増えること

が期待できる。手始めに、4月の講座を依頼した。予防も自分からすることであるが、周りからサポートするのも非常に大切なことである。

#### 事務局

ボランティアグループでも、講座を受講していただき、それをメンバーの方々が自分の地区に持ち帰って広めていくという展開が期待できるということでした。

地域福祉の担い手不足に困っているという地区があれば。

#### 八幡地区 鶴田委員

以前、この会議でも話したが、自分はマンションに住んでいる。マンションには、現在リタイアした方が増えているが、自治会や地区社協の活動にほとんど参加いただけず、家にこもりがちになっている方も多い。実際に、他にも聞いてみるとどこも同様の問題に悩んでいるとの話も聞いており、真剣に検討していかないといけない。どうしたら、出てきてもらえるのか、そのあたりについて知恵をお借りできれば。当マンションの提供公園では、シルバー人材センターの方が清掃等にご協力いただいたりしているが、そのような形で活動されている方もいれば、そうでない方々をどうすればよいか。

ボランティアということでは、先ほどシルバー人材センターの件もあったが、シルバー人材センターについては、活動に従事していくばくかの報酬を得ているものと思われる。それが、ボランティアで対応するということになる、どのような意識となるのか。千葉県の福祉大会において、ボランティアは数年後には有料化しないと回らないといったことも伺ったことがある。その後、同じような意見を聞く機会が何度かあり、今後、まるっきり無料で動いてもらうということも見直す必要があるのではないかと。

#### 事務局 野口課長

鶴田委員がご指摘されたのは、有償のボランティアなど、現在、例えば生活支援でリタイアされた方を活用するにあたり、無償なのか有償なのか、ワンコインといった方法もあるが、お互いさまということでお手伝いをいただいた方に対して、何かしらのお礼ができないかということである。頼む方も無料だと次に頼みにくいから、お礼程度のものは渡していくという方法も考えられる。今後、個人的には地域ごとに地域で検討していく必要があると考えている。例えば、ゴミ出しの問題など、隣の方が一緒に出してもらえればついでだから良いが、1軒あたり100円払ってもらって地域の方が何軒か回って回収すると年金プラスいくらかの収入となり、ゴミを出す側もお金を払ってお願いするから心苦しくないというような方法も出てくるのでは。そのようなところを今後、みんなで考えていかないといけない。それを行政がやるのか、地域の方々が助け合っていたりするのか、あるいは、地域の中で何らかの対価を支払って支えるのか。サービスによって違ってくるが、今回の介護保険の制度改正については、地域にお任せしますという部分が多いが、確かに一面としては財政的に厳しいというところもあるが、地域の中でどうするかという話をしていく必要があるのではないかと。例えば、ボランティアのあり方など、行政としても皆さんと一緒に考えていきたい。例えば、そのようなことは行政がやるというのであれば、当然、保険料に跳ね返ってくるし、そこは自分たちでやっていくというような仕組みづくりからやっていく必要

がある。今回の改正で、地域ケア会議というものを立ち上げることになるが、この地区推進会議と同じような仕組みで開催するものであり、この会議と整合性を計りつつ、様々な課題に対応していく必要がある。そのような流れにあり、皆さんとともに件が得ていきたい。

#### 市川東部地区 橋本委員

県社協主催の福祉のシンポジウムに参加してきたが、やはり頼む側としてもボランティアとして依頼するのが難しく、15分50円という単位で依頼する仕組みを作り、うまくいっている地区の事例を紹介いただいた。高齢者もただボランティアでお願いするということではなく、頼んだらそれなりの決まりを支払うことにより、お互いに気持ちよくやってもらえるのではないかと。

#### 菅野・須和田地区 松藤委員

地区全体の話ではないが、須和田第三自治会で検討し始めているが、住民アンケートを取り、どのようなことで困っているか、地域で望んでいるのはどのようなことかといったところを集計している。やはり、これまで出ているように、ゴミだし、草むしり、電球の交換、重い荷物の移動などのニーズがあったが、例えばシルバー人材センターに依頼すれば、いくらくらいでこのようなことをやってもらえるといった情報を投げかけたり、自分だったらこんなことができる、千葉商科大学では学生が買い物を手伝ってもらえるといった情報を発信していこうとしている。

また、もうひとつとして、紹介いただいた15分で50円というのは参考になったが、自治会がどういったことを困っているのかニーズを把握し、自治会で何かしらのボランティアを募って登録することとして、やはりアンケート結果でも只では頼みにくいという意見も多く、どうしていくのか考えている。自治会で登録されているボランティアの担い手とニーズを抱えている方を自治会でマッチングして、相互に情報を発信し、例えば15分50円であれば、そのうち半額をボランティアに謝礼として支払い、残りを自治会がもらい、自治会に入ったものは自治会のために利用する。そのような仕組みであれば、個人が金儲けのためにやっているという思いも、少しは軽減されるのではないかと。頼むほうもお金を払っているので、頼みやすい。支払いに際しては、チケット制のようにして運用できないか検討を進めている。

アンケート調査に際して、高齢者宅については、歩いて回収している。なかなか記入して回答してもらおうのは困難なことだから、訪問して聞き取りで回答を回収するなどしている。

#### 事務局

一番身近な自治会から、自治会の中でニーズを把握し、登録ボランティアへのマッチングを行う。頼む側も頼まれる側も自治会も潤うような仕組みで、今後に期待される場所であり、ぜひまた状況をご紹介いただきたい。

#### 《方向性3 活動内容の充実》

## 真間地区 石崎委員

参加者が固定化しているサロンについてであるが、昨年度は福島放射能の問題やゴミの分別といったテーマで勉強をする会を設けて、いつものメンバー以外も参加いただくことができた。26年度においては、昨今話題の「終活」をテーマとして、散骨やエンディングノートの書き方、成年後見制度といったことを勉強する機会を設けて、男性などにも参加いただけるような内容を企画している。

また、相談機能の向上について、真間においては様々な方が立ち寄っていただいて、引きこもりや精神障害・発達障害を抱える方が相談とまでは行かないまでも立ち寄っていただいている。そのときに、「えくる」や「がじゅまる」といった専門家の方につないで対応いただいたり、相談員会議にも参加いただくこともある。また、最近発達障害の若者を支援する「フラッグ」という団体もできたことから、拠点のギャラリーの活用を提案したり、会議に参加いただき意見交換をするなど連携を強めている。

## 事務局

専門機関を地域に巻き込んで、そこと連携しながら相談機能の向上につなげている状況を紹介いただいた。

確か、市川東部地区においても、メンタルサポートセンターの職員を講師に招き勉強会を開催したと伺ったこともある。

## 市川東部地区 橋本委員

市川東部地区のサロン活動も大勢の方々に参加いただき、毎月開催している。様々なテーマで開催しているが、「認知症サポーター養成講座」というような難しいタイトルではなく、参加しやすいような名称で開催したほうが良いとの意見もあり企画している。婦人会などでも講座を開催したが、このような良い内容であるのならと今後の参加につながる方もいるなど、初めてサポーター養成講座を受講した際は、ずいぶん難しい勉強をしないといけないと思ったが、そうではなくもっと身近で上手に話していただける方も多く、先日は社協の山口さんの話もわかりやすく、参加者にも好評であった。ぜひ、皆さんの地区でも依頼してはとPRしておく。

## 山口コミュニティワーカー

各サロンでは、自分の意思を相手に伝えるのが苦手な方の参加もあり、相談員を含めたサロン開催者から、そのような方をどのように迎えるかということで、メンタルサポートセンターの方を講師に招き、相談員会議で勉強会を開催した。また、認知症やコミュニケーションがうまく取れない方を相手にして、どのような関わり方をしていけばよいか、在宅介護支援センターの職員の講演をしてもらった機会もあった。このように専門機関をうまく巻き込んで、皆さんで研修を重ねていただければ、また、併せて社協、行政を含めて、研修できる職員もいることから、今後もうまく橋渡しをしていければと考えている。

## 事務局

真間地区では、「終活」をテーマに企画が進んでいるとの紹介もあったが、たまたま三井住友銀行市川支店の職員が窓口に来て、シルバーカレッジということで老後の生活について勉強会を企画していきたいとの話もあった。その中で、高齢者福祉の現

状を話してもらえないかとのことであつたが、金融機関としても高齢者の方の生活についてどのように支援していくかを検討している動きもあるようで、また、情報が入り次第ご紹介していきたい。

男性の参加が少ないということについて、皆さんのお考えを伺えればと思うが。

#### 宮久保・下貝塚地区 岩松委員

活動内容の充実ということでは、子供とのふれあいも重要である。当地区も高齢者も増えているが、15歳以下の子供も増えている。そういう意味で、今年度取り組んだことの成果として、80歳以上の敬老のお祝いとして配布したが、例年、品物を配るといことは行っていたが、今年度は工夫して、子供からのメッセージをつけることとした。そうしたところ、非常に好評で、高齢者から子供へのお礼の手紙をお預かりするなど、反響も大きかった。個別にお礼の手紙を届けることはできなかったが、学校にまとめて届けた。その中で、防犯パトロールなどにも、子供の参加が見られるようになった。また、地域清掃についても年2回行っているが、親子の参加が見受けられるようになってきている。そのようなことから、小さなうちから地域のふれあい活動への参加の機会を増やしていければと考えている。

#### 真間地区 石崎委員

パトロールと地域清掃は、単一自治会としてではなく、地区社協として実施しているのか。

#### 宮久保・下貝塚地区 岩松委員

地区社協としての企画もある。子ども会などに呼びかけたところ、時々一緒にやろうという話になっている。

#### 市川第一地区 鶴見委員

先日、社協の地区代表者連絡会において、市川第一地区の活動紹介をしたが、まずは男性が少ないということについては、共通の課題で長期低迷が続き、なかなか集まらないということが多かった。開催時期について、平日に行くことが多かったが、土日にやってはどうかということになった。そうしたところ、2年目になり男性の方々、特に平日仕事をやっているような現役世代の参加が見られるようになった。男性をターゲットとして取り組みとしてはそのようなことがあるが、その一方で男性だけでなく、世代を超えて、男性・女性を問わず、参加できるような内容でイベントを開催する方法もある。市川第一地区社協のイベントとして、ラジオ体操がある。そこで、子供がいる家族連れは、男性も出勤前に参加するなど、そのような機会になっている。また、グラウンドゴルフ大会については、土日で開催するが、子供から高齢者まで参加している。サロンの中でも、乳児向けの赤ちゃん広場を開催しているが、そこに平日来るのは母親と子供であるが、その波及効果として、普段、地区社協活動に参加していることにより、父親も参加できるような企画で、親子ふれあいバスツアーには両親そろって参加が見られるなど、息の長い活動につながっている。自ら率先して参加することが少ない男性を、奥さんが引っ張り出してくるなど、子供が出るから自分もというように、男性が出てくるようあの手この手で仕掛けている。ちなみに今月のツアーについても、3組の男性が参加する家族の申し込みもあるので、紹介させていた

だいた。

#### 大柏地区 林委員

男性を参加させるのは、永遠の課題に感じている。公民館などのサロンを見てもほぼ女性であり、男性が見られるのは囲碁将棋くらい。大柏地区でもサロンが7箇所あり圧倒的に女性が多いが、マージャンのサロンについては、男性の参加もある。男性が来ないといっても、男性が参加するような企画が無いことも問題である。やはり、いろいろ試してみるしかないとも思われる。

また、有償ボランティアについて話題になったが、隣近所のお互いさまという意識もあり、様々な考え方があるものである。5,6年前、近隣の大規模マンションにおいて、自治会が主催してお助け隊を結成したところがある。そこでは、支援を求める人と支援ができる方のマッチングを行ったとの話も聞いた。自分の自治会ではないが、以前から応援している。

#### 信篤二俣地区 原木委員

当地区では、年に1度ふれあい演芸会を開催している。今年度は明後日に開催するが、信篤小学校で、地元の幼稚園、小学校、中学校、高校が参加する演奏会を開催する予定であり、400人程度の参加を見込んでいる。そこには男性の参加も多く見られる。自分の孫や親戚、知り合いなどもあるものと思われ、4割程度は男性ではないか。

また、バス旅行について、今回はバスが2台予約できたので、男性も40名程度の参加も予定している。

男性料理教室についてはなかなか厳しい状態で、今年度は2回開催したが、15名程度の参加にとどまっている。今後も手を変え品を変え、柔軟に取り組んでいきたい。

#### 事務局

男性が参加できるような日程や、テーマ・企画などの工夫をする。また、演芸会など男女世代を問わず、交流の場を設けてはどうかといった事例を紹介いただいた。

#### 信篤二俣地区 原木委員

追加で報告させていただくが、信篤二俣地区では、無料配達をしてくれる商店の電話帳の作成を企画している。自分の地区だけでも20軒程度の商店がピックアップされており、最終的には5,60軒程度になるのではないか。これを作成し配布しようと考えているが、事業を拡大するにあたり財政が厳しくなっており、収入を増やす方法や支出を減らす方法など検討しないとイケない岐路に立っており、各地区のお知恵を借りられれば。015514

#### 真間地区 石崎委員

これが財政難の原因となっているのか。

#### 信篤二俣地区 原木委員

小さな電話帳といったところになるが、製作するのに5万から10万円程度の支出となる見込みである。

八幡地区 鶴田委員

それほどの予算をかけて製作するのか。

信篤二俣地区 原木委員

5万円程度であり、地域の方々にとっても商売をやっている方にもプラスになるものと思われる。高齢者だけでなく、多くの方々に配布することにより、地域の活性化にもつながると考えている。

八幡地区 鶴田委員

テレビでも、セブンイレブンやダイエーなどの企業がやっている事業もあり、今のお話としては、どれくらいの世帯に配布を検討しているのか。

信篤二俣地区 原木委員

全戸配布とすると3000程度となる。

八幡地区 鶴田委員

高齢者なり、買い物困難な方に限定する方法もある。

信篤二俣地区 原木委員

予算に余裕があれば、全戸配布したいところである。

真間地区 石崎委員

商店の活性化にもつながる。

信篤二俣地区 原木委員

来年度の事業であり、予算の状況によっては配布対象を限定するか検討する必要があるが。

市川第二地区 滝沢委員

良いアイデアである。

市川東部地区 橋本委員

印刷業者に発注するのか。自分たちで印刷するのか。

信篤二俣地区 原木委員

自分たちでも製作することもできるが、結局同じくらいの経費がかかる。

山口コミュニティワーカー

信篤二俣地区においては、各事業で部会制で取り組んでおり、充実してきている。各事業が活性化するにつれて予算が嵩んできており、財政難に陥りつつある中で、新たに買い物マップの制作に取り組む方向で検討を重ねている。これを制作するため、財政難になったというわけではなく、これまでの取り組みが充実するにつれて、新たな要素・事業が加わったということで、今後どのようにバランスを考えていこうかと

いう状況である。

#### 事務局

非常に良い取り組みであり、ぜひ出来上がったら情報提供いただければと考えている。

《方向性 2 地域住民のつながりの強化と情報の共有化》（北部地区）

《方向性 4 団体間の連携・情報の共有化》（中部地区）

#### 真間地区 石崎委員

委員の皆様のご意見を伺いたいが、先日、小学校区拠点運営協議会がコミュニティサポートを中心に防災拠点の話が出ているが、地区社協でも災害時要援護者の支援やお互いさま事業などの生活支援への取り組みの機運が高まっているが、実際に地区社協とコミュニティサポートで話し合いを持たれている地区があれば、教えていただきたい。メンバーは重複しているので、会議等には出席されていると思われるが、具体的に防災について一緒に考えているようなところがあれば。

コミュニティサポートでは、情報交換を行っているところではあるが、実際に課題を話し合おうという雰囲気はあまりないものと思われるが、行政からはそこを中心に進めるべきとの話であった。地区社協としても同じようなことを考えたいという機運が高まっているので、例えば地域ケア推進連絡会などでコミュニティサポートにも参加いただき、そこで共通のテーマで話し合ってみようかと考えているが、どうも分離している感がある。将来的には、災害時要援護者名簿といったところも含めて、実際に活動する上では、合体していく必要があると思われるが、話し合いの土壌としては全く別物で進んでいることから、ご意見をいただければ。

#### 市川第一地区 鶴見委員

小学校区の防災拠点については危機管理課から話があって、市川第一地区には、市川小、真間小、宮田小などがあり、地区社協の中でも防災拠点がそれぞれとなっている。これまで防災訓練などのイベントについては、地区社協としても自治会連合会の防災訓練に協力するというようにうまくすり合わせができていたが、小学校防災拠点の中での訓練となると、どのようにして行っていくか、まだ検討中でありこれから知恵を絞っていかないといけない。来年度に向けて、例えば、訓練を行うにあたり、市川第一地区社協と自治会連合会が共催で行うことでスムーズにできていたものが、やりにくい方向になっている。他のところと連携しなければならないことについて、枠組みが違うことにより、連携がしにくいことにならないように、行政の中で危機管理課と地域振興課、地域福祉支援課といったところの横のつながりを調整していただいて、地域に下駄を預けて苦勞をかけるようなことのないように連携を図っていただきたい。

コミュニティサポートについても同様で、行政の縦割りの枠組みでもってそれぞれのを、地域にお任せされても、現場レベルで居住者は同じであり、動きにくいのが実情としてあるため、行政でも考慮して地域とうまく連携がとれる方法を検討していただきたい。

#### 曾谷地区 箕輪委員

自治会連合協議会として関連があるので、補足として説明させていただく。

本来、防災拠点として考えていたのが、行政では当初9か所しか設定しなかったものを、今回39か所に増やした経緯がある。これについては、自助、共助、公助のうち、公助として飛躍的に進んだ部分と考えている。しかし、従来の防災訓練というと、中心になっているのが14の地区連合会であり、それに対して39か所の拠点が設置され、訓練量も増加することとなり、一人あたりの訓練参加で考えるとかなり充実していくものと思われる。現在、過渡期であることから、情報が整理されない状態で伝わっているため、誤解が生じている部分も大きいものと思われる。小学校区で割っているようにしなければならないと感じているが、学区の割り振りに基づいて設定したことが、誤解を招くこととなっている。もともとの自治会活動を考慮せず設定した学区によって活動することになると、基盤となる自治会活動に支障をきたすことになるおそれがあった。

しかし、担当と協議したところ、そのようなことではなかった。重要なのは、地域がどのように受け入れてもらえるかということで、問題が生じた場合は地域の地域が一番大変であることから、学区についても単なる数字上の割り振りという考えではなく、それも含めて地元で考えていただきたいというのが、本音であると思われる。

行政側としては39拠点をスタートしており、それに対して、自治会側がどう考えていくかについては検討中であり、もう1年は従来の14地区連合での防災訓練を継続していくという流れになっている。しかし、これで決定というわけではなく、近日常に担当者が集まって協議をしたうえで、方向性を定めていく予定である。

#### 大柏地区 林委員

大柏地区においては、15年くらい前から小学校単位で防災訓練を実施している。学区が自治会を分断する場合は、それなりに対応している。例えば、自治会においても、学区に応じて「大野小学校区自治会連合会」というような形で公印まで作成している。普段から運動会や夏祭りなどもそのようなメンバーで実施しているので、防災訓練についても特に支障を感じないが、地域によって事情が違うことも事実である。

#### 市川第二地区 滝沢委員

この小学校区のシステムは非常に素晴らしいものである。林委員のご指摘の通り、地域によってはスムーズにいく可能性もある。市川第二地区においては、10自治会しかないが、小学校区は7校分ある。1自治会につき1校に近いものとなり、これまでの体制が崩れてしまうことから、反対意見が大勢を占めた。

また、行政のスタート時点の方向性として、石崎委員も触れていたが、コミュニティサポートが前面になっており、地域の自治会がその下に入るような形となっていた。このようなことも、方向性が定まらず混乱の原因となっている。

しかしながら、このままでは良くないとのことで、自治連の箕輪会長が調整を図り、協議を進めることとなっている。

#### 信篤二俣地区 原木委員

この件に関連して、拠点と避難所は取り扱いが違うこととなっており、整理してお

く必要がある。各小学校拠点については、市川市の本部とつながっているが、そこには総務班や救護班といった組織があり、様々な情報を伝達したり物資を調達したりといった機能がある。拠点の周囲には、自治会館や公民館といった避難所が多くあることを認識しておく必要がある。

事務局

防災の議題になると様々な課題があるので、来年度の地区推進会議においてテーマを限定した形で取り上げたいと考えている。

## ■次第2 日常生活圏域の考え方について

事務局

《資料説明 資料2 第6期介護保険事業計画における日常生活圏域の考え方》

## ■次第3. その他

事務局

事務連絡

- ・報償費について
- ・議事録について

終了